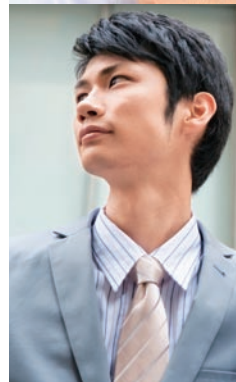


2008年度

株主通信 Vol.6

2008年4月1日～2009年3月31日
第29回定時株主総会決議ご通知

俺も応援
するぞ。





表紙：ホークス応援隊長に就任した
白戸家の「お父さん」

株主通信 Vol.6の見どころ

福岡ソフトバンクホークスに力強いサポーターが登場しました。詳しくは9ページをご覧ください。

われわれソフトバンクグループも、力強い躍進を続けています。

モバイルインターネットを通してライフスタイルをさらに豊かにする

当社グループの新しい動きについては、6ページからの特集をご覧ください。

第29回定時株主総会決議ご通知

当社第29回定時株主総会が、下記のとおり開催されました。

1. 日時 平成21年6月24日(水曜日)午前10時
2. 場所 東京都千代田区丸の内三丁目5番1号
東京国際フォーラム ホールA
3. 内容

- 報告事項
1. 第29期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)事業報告、連結計算書類ならびに
会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
 2. 第29期(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)計算書類報告の件

本件は、上記の内容について報告いたしました。

決議事項

第1号議案 剰余金の処分の件

本件は、原案のとおり承認可決され、剰余金の配当は1株につき2円50銭と決定いたしました。

第2号議案 定款一部変更の件

本件は、原案のとおり、株券電子化に伴い、当社定款規定のうち、株券、実質株主および実質株主名簿に関する文言を削除し、併せてその他の文言の修正および追加等所要の変更を行うことについて、承認可決されました。

第3号議案 取締役9名選任の件

本件は、原案のとおり、17ページ記載の取締役9名が選任され、就任いたしました。

第4号議案 監査役4名選任の件

本件は、原案のとおり、17ページ記載の監査役4名が選任され、就任いたしました。

なお、本総会終了後開催の取締役会において、代表取締役に孫正義氏が選定され、就任いたしました。

また、本総会終了後開催の監査役会において、常勤監査役に佐野光生氏が選定され、就任いたしました。

以上

2008年度ビジネスハイライト

4月

ソフトバンク、中国最大級SNS
"Xiaonei"を運営するOPI
(Oak Pacific Interactive)に出資

7月

ソフトバンクモバイル、
「iPhone™(アイフオーン) 3G」を
全国で発売

5月

ソフトバンクモバイル、ソフトバンクBB、
ソフトバンク携帯電話とIP電話「BBフォン」
との国内通話が24時間無料になる
サービス「ホワイトコール24」を発表

8月

ソフトバンクテレコム、「平成20年度
優秀カスタマーサポート表彰制度」で
「経営貢献賞」受賞

6月

ソフトバンクモバイル、ヤフー、
ソフトバンク携帯電話向けのポータル
サイト「Yahoo!ケータイ」をリニューアル

9月

ソフトバンクモバイル、夏目漱石や
宮沢賢治などの名作を含む2,000作品
以上の電子書籍を情報料無料で楽しめる
新コンテンツサービス「タダ本」開始

10月

ソフトバンクモバイル、インターネット主要企業5社
(ディー・エヌ・エー、ドワンゴ、 Myspace、ミクシィ、ヤフー)と
モバイルインターネットサービスに関する相互連携を発表

11月

ソフトバンクBB、基本料490円からの2段階定額制
ADSLサービス「Yahoo! BB ホワイトプラン」の提供を開始
→ 9ページへ

12月

ソフトバンクモバイル、ヤフー、デジタルコンテンツの
案内サイト「S!コンテンツストア」をオープン

1月

ソフトバンクモバイル、月額315円で合計5,000円相当の
人気コンテンツサイトが使い放題になる「コンテンツ得パック」の
提供を発表
→ 7ページへ

2月


ソフトバンクモバイル、「iPhone 3G」の本体価格を実質0円、
パケット定額の上限を5,985円から4,410円にした
「iPhone for everybodyキャンペーン」を開始

3月

ソフトバンクモバイル、お笑いの総合格闘技
「S-1(エスワン)バトル」を開始
→ 6ページへ

CONTENTS

- 2 株主の皆さまへ
- 6 特集
- 8 In Focus
- 10 Inside SOFTBANK
- 11 連結財務諸表
- 14 事業セグメント別業績
- 17 会社概要



4期連続最高益更新と
なった2008年度を振り
返り、インターネット
企業としての今後の
成長戦略を語ります。
→ 2ページへ



ソフトバンク携帯電話
夏のラインアップは
過去最多の19機種
61色。お客さまの
あらゆるニーズに
お応えします。
→ 8ページへ

株主の皆さまへ

ブロードバンド、携帯電話、そしてモバイルインターネットへ——コミュニケーションのための技術が進歩し、ライフスタイルを変えていく環境が整ってきました。インターネットカンパニーとしてのソフトバンクがさらに優位性を発揮する時がきたとわれわれは考えています。



2008年度を振り返って

インターネットはモバイルが中心となり、モバイルインターネットを制した者がインターネットの覇者となる——われわれはこのような長期的ビジョンのもと、携帯電話事業にいち早く参入するため、ボーダフォン日本法人を買収し、さまざまな取り組みを進めてきました。その結果、2008年度の携帯電話の新規契約数から解約数を差し引いた純増契約数の実績は、2007年度に引き続き2年連続で携帯電話事業者の中でNo.1*1を獲得することができました。この順調な顧客基盤の拡大により移動体通信事業の通信料収入は2007年度を上回るなど、事業を着実に成長させています。それとともに、ソフトバンクモバイルが展開してきたテレビCMでは、全9,472ブランドのうち、全世代のCM好感度で2008年度通期No.1*2を獲得するなど、ブランド価値も着実に向上しています。

2009年3月期決算説明会
(2009年4月30日撮影)

このような状況の中、2008年度第2四半期決算発表と同時に2008年度業績予想(営業利益3,400億円、フリーキャッシュフロー(純現金収支)^{*3}1,400億円)を開示しました。そして、2度の上方修正を経て、2008年度実績は当初の業績予想を上回る成果を上げることができ、営業利益は創業以来最高益を4期連続で更新とする3,591億円、フリーキャッシュフローは415億円上回る1,815億円とすることができました。

2009年のテーマ: モバイルインターネットコンテンツ

われわれは2008年を「インターネットマシン元年」と位置づけ、「iPhone 3G」をはじめとする携帯電話端末を市場に投入し、モバイルインターネットを通して、ニュース、音楽、コミック、ゲームなどのさまざまなコンテンツをより楽しめる環境を整えてきました。

2009年は「モバイルインターネットコンテンツ」をテーマとし、既にお笑いの総合格闘技「S-1バトル」や、スポーツ情報、芸能ニュースなどの最新動画をメール配信する「選べるかんたん動画」を開始しています。

今後もモバイルインターネットを通して新しいライフスタイルを提案すべく、全力で取り組んでいきます。

キャッシュフロー経営のさらなる強化へ

2009年度の営業利益、フリーキャッシュフローは2008年度を上回る計画で、営業利益は4,200億円、フリーキャッシュフローは2,500億円を見込んでいます。

また、フリーキャッシュフローの増加に対する自信が深まったため、2009年度から2011年度までの3年間では、合計1兆円前後のフリーキャッシュフロー創出を見込んでいます。純有利子負債^{**}も2011年度までに半減、2014年度までにゼロとすることを目標として掲げています。

ソフトバンクは大きな先行投資を必要とする時期から、より安定した成長が見込める時期に入りました。そのため、これまで一定額だった配当については、2009年度に増配を予定しています。

今後もさらなる成長に向け、グループ全体でキャッシュフロー経営の強化に取り組んでいきます。

*1. 出所: (社)電気通信事業者協会の統計資料をもとに当社算出

*2. 出所: CM総合研究所/CM DATABANK 消費者3,000人の月例CM好感度調査

*3. フリーキャッシュフロー=営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー

*4. 純有利子負債にはリース債務は含んでおりません。

インターネットカンパニーとしての今後の成長に向けて

2009年4月には通信関連の事業を担う3社（ソフトバンクモバイル、ソフトバンクBB、ソフトバンクテレコム）のサービスブランドロゴを、携帯電話でおなじみのシルバーのロゴに統一しました。今後もひとつのシンボルマークのもとに一層3社の連携を強化し、グループシナジーのさらなる創出を目指していきます。



ソフトバンクは「モバイルインターネット」、「アジアインターネット」の2つの領域でNo.1となることを長期的なビジョンとしており、このビジョンを具現化することによって、収益性を一層高め企業価値の最大化を実現していきます。株主の皆さまにおかれましては、われわれの夢と志を共有していただき、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2009年6月

ソフトバンク株式会社
代表取締役社長

孫 正義

ソフトバンクグループ経営理念

デジタル情報革命を通じて、人々が知恵と知識を共有することを推進し、
企業価値の最大化を実現するとともに人類と社会に貢献する

株主Q&A

このページでは、株主の皆さまからのご質問にお答えします。

Q 2009年度の業績予想について、どのような見通しを持っているのか。

A 全事業セグメントの継続的な改善により、増収増益を見込んでいます。

2009年度は営業利益4,200億円、フリーキャッシュフロー2,500億円を見込んでおり、増収増益となる見通しです。増益見通しは、主に移動体通信事業の収益改善の影響で、順調な顧客基盤の拡大などにより通信料収入が増加すること、また端末関連コストの削減や貸倒関連費用の改善などによりさらなる経営効率化が見込まれるためです。フリーキャッシュフローの見通しについては、前述の通り営業利益が増加することに加え、設備投資のさらなる効率化が見込めることが挙げられます。今後はキャッシュフローを重視した経営をさらに強化してまいります。

Q 株主還元についてどう考えているのか。

A フリーキャッシュフローの最大化による企業価値の向上を図るとともに、増配による株主還元を予定しています。

2008年度のフリーキャッシュフローは1,815億円となり、2007年度対比で大きく改善しました。また、2009年度から2011年度の3年間では、合計1兆円前後のフリーキャッシュフロー創出を目標としています。同時に、純有利子負債の削減については、2011年度には現在の半分に、2014年度にはゼロにすることを目指してまいります。

配当については、2009年度はこれまでの配当額の倍額となる1株当たり5円への増配を予定しています。さらに、純有利子負債削減の目標を達成していく過程では、増配も検討していきたいと考えています。

インターネットを軸に成長を続けているソフトバンクグループは、「モバイルインターネット」、「アジアインターネット」を成長領域と位置づけ、事業のさらなる成長による企業価値の最大化を目指してまいります。

インターネットカンパニーとしての さらなる成長に向けて

モバイルインターネットをもっと楽しく便利にする!

携帯電話の通信速度、画面の大きさ、CPUの処理能力が飛躍的に向上し、
モバイルインターネットコンテンツがさらに多様化しています。
ソフトバンクはインターネットカンパニーとしてのノウハウを生かし、
楽しく便利なモバイルインターネットコンテンツをお客さまに提案していきます。

選べるかんたん動画

バラエティー豊かな動画がメールで届く

「選べるかんたん動画」は、「S-1バトル」、「野球(12球団別)」、「芸能ニュース」、「海外サッカー」、「国内サッカー(J1は18クラブ別、J2はダイジェスト)」、「格闘技」、「大相撲」、「韓流エンタメ」の各ジャンルからお好みのコースを選択し、携帯電話向けにオリジナルの編集を行った動画をお楽しみいただけるサービスです*1。動画が更新・追加される時に配信されるメールの中の画像をクリックするだけで、1分~2分程度の動画を簡単に視聴できます。動画はバラエティー豊かな8ジャンル、全37コースから選択できます*2。例えば、今までなかなかテレビで放映されなかった応援しているチームの勝利試合の様子が、登録しておくだけで自動でメール配信され、お楽しみいただけます。

*1. 「選べるかんたん動画」のご利用には、通信料がかかります。

*2. ご利用には「SIベーシックパック(月額使用料315円/税込)」「バケット定額サービス」への加入が必要となります。



選べる
8ジャンル
37コース



S-1バトルメール



野球メール
(12球団別)



海外サッカー
メール



国内サッカーメール
(J1 18クラブ別、
J2 ダイジェスト)



格闘技メール



大相撲メール



芸能ニュース
メール



韓流エンタメ
メール

コンテンツ得パック

月額たったの315円(税込)*1で人気のモバイルコンテンツ

月額5,000円相当*2が利用可能に

携帯電話のインターネットコンテンツは会員制の有料サイトが多く、興味があるコンテンツでも、月々の利用料を考えると登録をあきらめていた方も多かったのではないのでしょうか。「コンテンツ得パック」*3はニュース、芸能・映画情報、ゲーム、お笑い、辞書、法律相談から家庭の医学に至るまで、多様なジャンルをカバーした20の「共通コンテンツ」に、釣り、サッカー、野球などの6コンテンツが利用できる「+スポーツ」、または健康・ダイエットやレシピ、占いなど6コンテンツが利用できる「+ライフ」のどちらかを選択し、合計26コンテンツ(5,000円相当)が月額使用料315円(税込)で楽しめるリーズナブルなサービスです。

*1. 「コンテンツ得パック」のご利用には、通信料がかかります。

*2. 合計の情報料は、各公式サイトの情報料をベースにソフトバンクモバイル(株)が試算したものです。

*3. ご利用には、「S!ベーシックパック(月額使用料315円/税込)」への加入が必要となります。「コンテンツ得パック」対応機種であっても、サイトによってはご利用いただけない場合があります。



OMNIA POP
SoftBank 931SC
(サムスン電子製)



SoftBank 931N
(NEC製)

抽選でもれなくプレゼントが当たる キャンペーンを実施中

「ギフトお得便」モバイルサイト:

<http://otokubin.sbg.jp/>

キャンペーンサイト:

「Yahoo!ケータイ」トップ→

メニューリスト→

Yahoo!ケータイサービス一覧



SoftBank 931P

(パナソニック モバイル
コミュニケーションズ製) (左)

SOLAR HYBRID

SoftBank 936SH

(シャープ製)



ギフトお得便

「おトク」と「楽しい」をお届けする情報マガジン

登録するだけで、お得で楽しい情報がメールで届く「ギフトお得便」*1は、100万人以上のお客さまにご利用いただいています。このサービスは素敵なプレゼントが当たる懸賞や、お得なクーポン、オリジナル絵文字などの情報を、情報料無料*2でお届けします。

2009年6月22日～7月7日の間は七夕キャンペーンを実施しており、七夕をテーマにした素敵なプレゼントが抽選で当たります。

*1. プリペイド式携帯電話やiPhone 3G、Xシリーズなど一部機種ではご利用いただけません。

*2. 「ギフトお得便」のご利用には、通信料がかかります。また「S!ベーシックパック(月額使用料315円/税込)」への加入が必要です。

写真から始まる新しいコミュニケーション

ソフトバンク携帯電話の夏のラインアップ“SoftBank Summer 2009”はソフトバンク史上最多となる19機種61色。お客さまのあらゆるニーズにお応えする豊富なラインアップで新しいコミュニケーションを提案します。ここでは、撮る・見る・送る・共有するという写真の楽しみ方をひとつ上のレベルへ押し上げる、2つのモデルを紹介します。

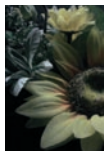
AQUOS SHOT SoftBank 933SH

(シャープ製)

目指したのは徹底的なカメラ機能の進化。まさに「高性能デジタルカメラケータイ」と呼ぶにふさわしい、最高峰のカメラ機能を搭載しています。

FEATURE 1

有効画素数1,000万画素のCCDカメラを搭載。多くの光を取り込めるCCDならではの高感度、低ノイズの美しい描写により、早い動きの被写体や暗い場所でもきれいに撮影できます。



5.2M CMOS
カメラで撮影



933SH 10.0M
CCDカメラで撮影

FEATURE 2

AQUOS SHOTは操作も簡単。撮影シーンや被写体をカメラが自動で認識し、8つのモードを自動で設定する「シーン自動認識」機能を搭載。今まで携帯電話では撮影が難しかった夜景なども、自動で本格的な撮影が可能です。また、シーンに合わせて36の撮影モードを設定可能なほか、従来のモバイルライトの約5倍*の明るさを実現した高輝度LEDフラッシュ、タッチパネルで簡単に操作できる人物優先オートフォーカス、100万画素のサイズで連続10カットを高速撮影できる「メガピクセル連写」も搭載しています。

*従来機種930SH比、遮光環境において



・「AQUOS」「AQUOS SHOT」はシャープ株式会社の登録商標または商標です。

Photo Vision SoftBank HW001

(Huawei製)

「Photo Vision」は通信機能を搭載しており、メールで送られてきた写真を簡単に表示し楽しめる次世代のデジタルフォトフレームです。

シンプルで飽きのこないボディに約7インチの大画面液晶、タッチパネル式操作ボタンを採用しており、必要最小限の操作ボタンで誰でも簡単に操作ができます。

FEATURE 1

「Photo Vision」にメールを送るだけで、受け手は新しい写真をすぐにスライドショーで見ることができます。家族や友人からメールで届いた写真を、居間・寝室・仕事場などさまざまな場所に飾ることができます。



FEATURE 2

「Photo Vision」には、月額基本使用料980円(税込)でメールが受け放題になる、専用のシンプルな定額料金プラン「フォトビジョン ライトプラン」を用意しています。なお、「Photo Vision」の発売に合わせて、月額基本使用料が半額の490円となる「フォトビジョンデビューキャンペーン」(2010年1月12日まで)を開始します。

「俺も応援するぞ。」

白戸家の「お父さん」がホークス応援隊長に就任

2009年4月13日、ソフトバンク携帯電話のテレビCMでおなじみの白戸家の「お父さん」が、福岡ソフトバンクホークスの応援隊長に就任しました。ソフトバンク携帯電話の純増契約数が2年連続でNo.1を達成した立役者である「お父さん」が、2009年シーズンのホークスを背番号「0103」のユニフォームで引っ張っていきます。悲願の優勝を目指して戦う2009年シーズンのホークスに熱い応援をお願いします。

「お父さん」が選手の左袖に

ソフトバンクモバイルがホークスの2009年シーズンユニフォームスポンサーになることが決定し、シーズン中の選手ユニフォームの左袖から「お父さん」がエールを送ることになりました。



ソフトバンクユーザー限定980円チケット!

ソフトバンク携帯電話(ディズニー・モバイルを除く)をご利用のお客さまを対象に、2009年6月以降にヤフードームで開催されるホークスの全公式戦* 3塁側A指定席が各試合1,000枚限定で1枚980円(通常価格4,300円)で購入できる権利が当たる「ソフトバンクモバイル 980円チケット」を開始します。詳しくは、ホークス公式ケータイサイトをご覧ください。

(チケット応募サイト http://sbm-hawks.jp/?cc_M014)

* クライマックスシリーズ、日本シリーズを除く



ADSLもお手軽が1番

「Yahoo! BB ホワイトプラン」がスタート

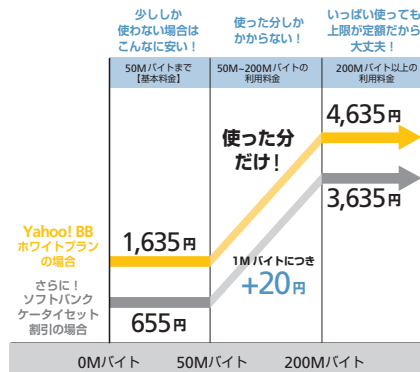
月額基本使用料980円のソフトバンク携帯電話の「ホワイトプラン」は、手軽さが広く受け入れられ、申込件数が1,500万件を突破しています。ソフトバンクBBは、「Yahoo! BB」のお客さまにも手軽にブロードバンドサービスを楽しんでいただくために、基本料490円からの2段階定額制のADSLサービス「Yahoo! BB ホワイトプラン」を2008年12月より開始しています。

「Yahoo! BB ホワイトプラン」の基本料490円には、50Mバイトまでのデータ利用料が含まれています。データ利用が50Mバイトを超えた場合は200Mバイトまで1Mバイトあたり20円が加算される従量制で、データ利用に伴う従量料金の上限は3,980円です。そのため、月々のインターネット利用量が少ない方や、月によってインターネット利用量に差がある方などに適したサービスです。

さらにソフトバンク3G携帯電話とセットでご契約されるお客さまには、「Yahoo! BB ホワイトプラン」の基本料金を割引く「ソフトバンクケータイセット割引」をご用意しています。

* 上記の説明は、「Yahoo! BB ホワイトプラン(a)」(東日本エリア)通常タイプをご利用の場合です。「Yahoo! BB ホワイトプラン」をご利用いただくには「基本料」のほかに、「プロバイダー料」、「モデムレンタル料」、「回線使用料」などが必要です。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

(URL: ybb.softbank.jp/)



「Yahoo! BB ホワイトプラン(a)」8M通常タイプ(東日本エリア)の場合の月額利用料金イメージ

ソフトバンクグループのCSR活動

ソフトバンクグループは、事業を通じて社会の未来に貢献し、ステークホルダーの皆さまと共に発展を遂げる企業でありたいと考えています。2008年4月に制定した「ソフトバンクグループCSR基本方針」のもと、子どもたちが安全・安心にインターネットや携帯電話を利用できる環境づくりなど、ソフトバンクだからこそ担えるさまざまな役割を積極的に果たしていきます。

健全なインターネット社会を築くための取り組み

ソフトバンクモバイルでは、子ども向け携帯電話「コドモバイル SoftBank 820T」や「fanfun.petit(ファンファン プチ) SoftBank 831T」を提供しています。これらは通話・メール・ウェブ接続や発信先を制限する機能とともに、目的地到着をメールで自動的にお知らせする「イドコロメール」、もしものときの大音量ブザーなど、子どもの安全確保と保護者の安心に配慮したさまざまな機能を搭載しています。また、携帯電話利用のための啓発活動の一環として、「ケータイあんしんBOOK」を配布するとともに、携帯電話との付き合い方について子どもたち自身が主体的に学ぶことができる教材「考えよう、ケータイ」(DVD映像教材付き指導案冊子)をNPOと共同開発し、学校関係者に対して無償提供や研修会を実施しています。

ヤフーでは、子どもに安心して見せることができ、かつ保護者や家族も一緒に楽しく学べる子ども向けポータルサイト「Yahoo!きっず」のほか、子どもの健全な育成に不適切なサイトの閲覧制限や、1日の利用時間の制限などが行えるフィルタリングサービス「Yahoo!あんしんねっと」を提供しています。また2008年にはネットスター株式会社と共同で、学識経験者・学校関係者・保護者で構成される「子どもたちのインターネット利用について考える研究会」を設立しました。第一期活動ではブログやSNSに代表される「双方向利用型ウェブサイト」の利用リスクを評価するための指標や、保護者向けの教材として「中高生のお子さんを持つ保護者のためのインターネットセーフティガード」を作成しました。同研究会のこれまでの活動成果はウェブサイトで公開されています。

(URL: www.child-safenet.jp/)



コドモバイル
SoftBank 820T(右)

fanfun.petit
SoftBank 831T



Yahoo! きっず

連結財務諸表

連結業績

ソフトバンクグループは、2008年を「インターネットマシン元年」と位置づけ、モバイルインターネットのさらなる可能性を追求し、その普及に努めてきました。その結果、ソフトバンクモバイルでは新規契約数から解約数を差し引いた純増契約数において、2007年5月から2009年3月まで23カ月連続でNo.1を継続しています。また、ソフトバンクモバイル、ソフトバンクBB、ソフトバンクテレコムの通信3社は、各種FMCサービス*1の提供を開始するなどグループシナジーを高める取り組みを行っています。これらの結果、営業利益は最高益を4期連続で更新しました。

当期の売上高は、2,673,035百万円となり、前期と比較して103,132百万円(3.7%)減少しました。これは主に、移動体通信事業で携帯電話端末の販売台数が減少し、同事業の売上高が減少したことによるものです。営業利益は359,121百万円となり、前期と比較して34,833百万円(10.7%)増加しました。これは主に、ソフトバンクテレコムおよびソフトバンクBBにおける継続的なコスト

削減の取り組みに加え、ヤフーの順調な利益拡大が寄与し、営業利益が増加したことによるものです。経常利益は前期と比較して32,952百万円(12.7%)減少し、225,661百万円となりました。これは主に、当社の持分法適用関連会社Alibaba Group Holding Limitedの子会社Alibaba.com Limitedが、前期に香港証券取引所へ新規上場した影響です。またソフトバンクモバイルの発行済み普通社債について、デット・アサンプションに係る追加信託損失として75,000百万円を特別損失に計上したことなどにより、当期純利益は前期と比較して65,452百万円(60.3%)減少し、43,172百万円となりました。

ソフトバンクグループは、当期第2四半期より連結業績見通しを公表し、2009年度は当期実績から、連結営業利益は608億円、連結フリーキャッシュフローは684億円の改善を見込んでいます。

*1. 移動体通信と固定通信の機能を融合した通信サービス

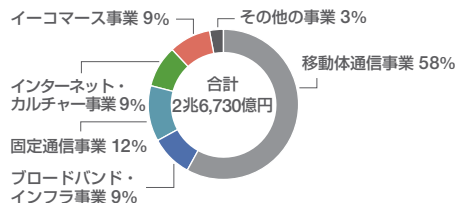
業績の推移 (単位:百万円)

連結会計年度 (4月1日から翌年3月31日までの1年間)	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
売上高	837,018	1,108,665	2,544,219	2,776,168	2,673,035
営業利益 (△損失)	△25,359	62,299	271,065	324,287	359,121
経常利益 (△損失)	△45,248	27,492	153,423	258,614	225,661
当期純利益 (△損失)	△59,871	57,550	28,815	108,624	43,172
1株当たり当期純利益 (△損失) *1 (円)	△57.01	54.36	27.31	101.68	39.95
1株当たり配当金*1 (円)	2.33	2.50	2.50	2.50	2.50

*1. 1株当たり当期純利益(△損失) / 配当金については、2006年1月5日付実施の株式分割(1株を3株に分割)を加味した選及(そきゅう)修正を行っています。

売上高構成比率

2008年度



連結業績予想 (単位:億円)

	2007年度	2008年度	2009年度 (予想)
営業利益	3,242	3,591	4,200
フリーキャッシュフロー	△1,642	1,815	2,500
1株当たり配当金(円)	2.50	2.50	5.00

連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前期末 (2008年3月31日現在)	当期末 (2009年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	1,582,744	1,520,313
— 現金及び預金	491,161	457,953
受取手形及び売掛金	887,723	858,084
有価証券	4,928	2,917
商品及び製品	58,118	42,320
繰延税金資産	105,850	93,021
その他	103,351	114,874
貸倒引当金	△68,388	△48,858
固定資産	2,973,337	2,865,036
有形固定資産	1,029,265	1,000,946
無形固定資産	1,238,309	1,222,108
— 投資その他の資産	705,763	641,980
繰延資産	2,818	1,322
資産合計	4,558,901	4,386,672

☞ 現金及び預金

前期比33,207百万円の減少
主にヤフーにおける自己株式取得による影響です。

☞ 投資その他の資産

前期比63,782百万円の減少
Yahoo! Inc.の株価下落の影響などによるものです。

☞ その他

前期比37,255百万円の増加
デット・アサンプションに係る追加信託義務に伴う長期未払金が含まれています。
(11ページ、14ページ参照)

☞ その他有価証券評価差額金

前期比49,580百万円の減少
主に米Yahoo! Inc.の株価下落の影響です。

(単位：百万円)

	前期末 (2008年3月31日現在)	当期末 (2009年3月31日現在)
負債の部		
流動負債	1,240,704	1,349,583
支払手形及び買掛金	187,279	160,339
短期借入金	448,571	575,532
一年内償還予定の社債	52,540	64,000
未払金及び未払費用	364,450	352,171
未払法人税等	35,079	21,363
リース債務	69,770	88,241
その他	83,012	87,935
固定負債	2,469,472	2,212,290
社債	445,211	324,566
長期借入金	1,586,645	1,436,292
繰延税金負債	41,977	28,795
退職給付引当金	16,158	16,076
ポイント引当金	43,809	41,816
リース債務	241,496	233,314
その他	94,172	131,428
負債合計	3,710,176	3,561,873
純資産の部		
株主資本	307,213	348,197
資本金	187,422	187,681
資本剰余金	211,740	211,999
利益剰余金	△91,744	△51,269
自己株式	△206	△214
評価・換算差額等	76,529	25,897
— その他有価証券評価差額金	80,914	31,334
繰延ヘッジ損益	△11,823	25,117
為替換算調整勘定	7,437	△30,554
新株予約権	120	289
少数株主持分	464,862	450,414
純資産合計	848,725	824,798
負債純資産合計	4,558,901	4,386,672

連結損益計算書

(単位：百万円)

	前期 (2007年4月1日～ 2008年3月31日)	当期 (2008年4月1日～ 2009年3月31日)
売上高	2,776,168	2,673,035
売上原価	1,467,363	1,365,903
売上総利益	1,308,805	1,307,132
販売費及び一般管理費	984,517	948,011
営業利益	324,287	359,121
営業外収益	69,387	13,016
営業外費用	135,060	146,475
経常利益	258,614	225,661
特別利益	29,785	11,212
特別損失	62,511	129,535
税金等調整前当期純利益	225,887	107,338
法人税、住民税及び事業税	48,649	39,390
法人税等調整額	29,533	△19,674
少数株主利益	39,079	44,450
当期純利益	108,624	43,172

連結キャッシュフロー計算書

(単位：百万円)

	前期 (2007年4月1日～ 2008年3月31日)	当期 (2008年4月1日～ 2009年3月31日)
営業活動によるキャッシュフロー	158,257	447,857
投資活動によるキャッシュフロー	△322,461	△266,295
財務活動によるキャッシュフロー	284,727	△210,348
現金及び現金同等物の期末残高	490,266	457,644

連結株主資本等変動計算書

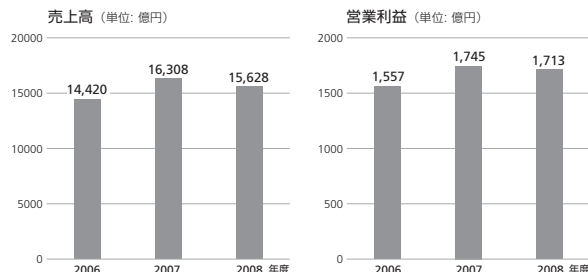
当連結会計年度(2008年4月1日～2009年3月31日)

(単位：百万円)

	株主資本						評価・換算差額等				新株予約権	少数株主 持分	純資産合計
	資本金	新株式申込 証拠金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価 証券評価 差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
前期末残高	187,422	—	211,740	△91,744	△206	307,213	80,914	△11,823	7,437	76,529	120	464,862	848,725
実務対応報告第18号の適用による影響額				△3		△3							△3
当期変動額													
米子子会社の新会計基準適用による 利益剰余金減少高				—		—							—
新株の発行	258	—	258			517							517
剰余金の配当				△2,701		△2,701							△2,701
連結範囲の変動				△3		△3							△3
持分法の適用範囲の変動				10		10							10
当期純利益				43,172		43,172							43,172
自己株式の取得					△8	△8							△8
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)							△49,580	36,940	△37,992	△50,632	169	△14,447	△64,910
当期変動額合計	258	—	258	40,478	△8	40,987	△49,580	36,940	△37,992	△50,632	169	△14,447	△23,923
当期末残高	187,681	—	211,999	△51,269	△214	348,197	31,334	25,117	△30,554	25,897	289	450,414	824,798

事業セグメント別業績

移動体通信事業



- 2006年度より移動体通信事業セグメントを新設しました。なお2006年度の業績には、ソフトバンクモバイルの11カ月分の業績が反映されています。

当期のトピック

- 純増契約数は2年連続No.1、累計契約数は2,000万件を突破
- 順調な顧客基盤拡大により通信料収入が増収

売上高は1,562,890百万円となり、前期と比較して67,961百万円(4.2%)減少しました。営業利益は171,389百万円となり、前期と比較して3,180百万円(1.8%)減少しました。当事業の主な事業会社のソフトバンクモバイルでは、携帯電話端末の販売台数が減少したことにより端末売り上げは減収となりましたが、順調な顧客基盤の拡大などにより通信料収入は増収に転じました。

なお当期において、発行済み普通社債について過去に実施した実質的期限前償還(デット・アサンプション)に関し、デット・アサンプションに係る追加信託損失として75,000百万円を特別損失に計上しました。

ソフトバンクモバイルでは当期の主な取り組みとして、「iPhone 3G」などのタッチパネル式高機能携帯端末を発売し、「モバイルウィジェット」や「S-1バトル」などの魅力的な携帯電話向けコンテンツの提供を開始しました。その結果、当期の新規契約数から解約数を差し引いた純増数の合計は204万6,700件となり、2年連続で200万件を上回る純増を達成し、通期ベースでの純増契約数No.1を獲得しました。当期末の累計契約数は、2,063万2,900件^{*1}となりました。シェアは前期末から1.1ポイント上昇して19.2%となりました。3G携帯電話の契約数は、全契約数の90%以上にあたる1,865万件となりました。

当期の解約率(通期)は1.00%となり、前期と比較して0.32ポイント改善しました。また当期の買替率(通期)は1.71%となり、前期と比較して0.49ポイント改善しました。

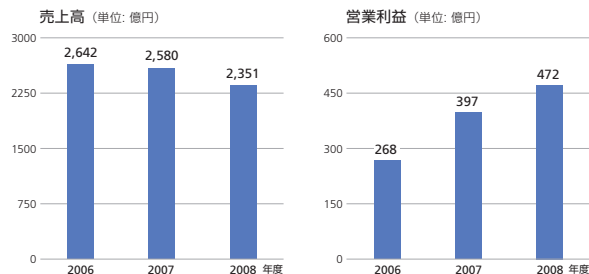
当期の総合ARPU^{*2}は4,070円となり、前年同期と比較して580円減少しました。この総合ARPUの減少は、新スーパーボーナス加入者向けの特別割引「月月割^{*3}」の利用者数の増加などによる音声ARPUの減少によるものです。また、当第4四半期では事業者間接続料金の改定や前期のうるう年の影響などの一時的な要因による影響が出ています。一方、通期のデータARPUは1,740円で、前年同期と比較して250円増加し、総合ARPUに占める比率は42.8%となりました。

^{*1} ソフトバンクモバイルの累計契約数には、通信モジュールの契約数が加算されています。なお当期末の通信モジュールの契約数は56,200件でした。

^{*2} Average Revenue Per User: 契約者1人当たりの平均収入。

^{*3} 2008年11月1日より、「新スーパーボーナス特別割引」が「月月割」に名称を変更しました。

ブロードバンド・インフラ事業



当期のトピック

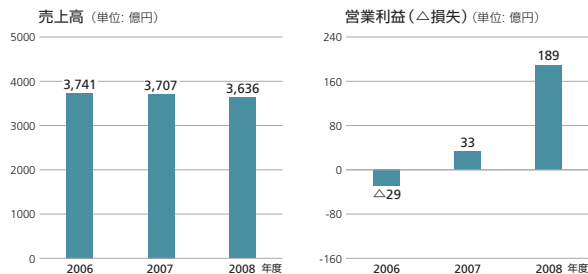
- 基本料490円から始められる、2段階定額制のADSLサービス「Yahoo! BB ホワイトプラン」の提供を開始
- BBフォンとソフトバンク携帯電話を融合させたFMCサービス「ホワイトコール24」の提供を開始

売上高は235,199百万円となり、前期と比較して22,869百万円(8.9%)減少しました。営業利益は47,253百万円となり、前期と比較して7,553百万円(19.0%)増加しました。当事業の主な事業会社のソフトバンクBBのADSL事業部門では、累積接続回線数の減少などにより減収傾向にあるものの、販売関連費用の減少、減価償却費、支払リース料などの減少により、増益基調が続いています。

ソフトバンクBBのブロードバンド総合サービス「Yahoo! BB ADSL」における、当期末の累積接続回線数は429万9,000回線、当第4四半期のユーザー支払いベースのARPUは4,262円となりました。

ソフトバンクBBは2008年12月1日より、基本料490円(税込)から始められる、2段階定額制のADSLサービス「Yahoo! BB ホワイトプラン」の提供を開始しました。また、同日「Yahoo! BB ホワイトプラン」とソフトバンク3G携帯電話をセットで契約する顧客向け割引サービス「ソフトバンクケータイセット割引」を開始し、グループ会社間のシナジーの創出とともに、競争力の向上に取り組んでいます。

固定通信事業



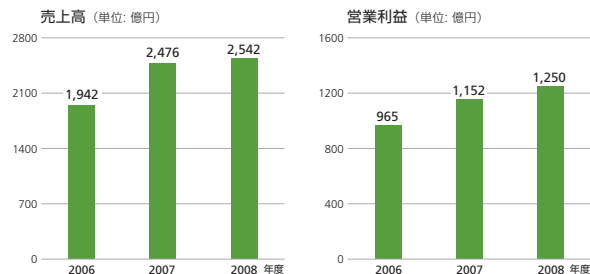
当期のトピック

- 「おとくライン」とソフトバンク携帯電話を融合したFMCサービス「ホワイトライン24」、「ホワイトオフィス」を発表

売上高は363,632百万円となり、前期と比較して7,108百万円(1.9%)減少しました。営業利益は18,968百万円となり、前期と比較して15,628百万円(467.9%)増加しました。当事業の主な事業会社のソフトバンクテレコムにおいては、直取型固定電話サービス「おとくライン」などが堅調で、引き続き増収を維持しました。また継続的な経営の効率化や、「おとくライン」、「Ether(イーサ)コネク」など利益率の高いサービスの回線数増加により、当事業の黒字幅は拡大基調にあります。

ソフトバンクテレコムは、引き続き「おとくライン」を主軸に、法人ビジネス基盤を拡大しています。当期末の累積接続回線数は前期末から20万6,000回線(14.7%)増加し、160万8,000回線となりました。そのうち、法人契約が占める比率は77.6%となり、引き続き上昇しています。また同社では、2008年6月から「おとくライン」とソフトバンク携帯電話(ホワイトプラン)との国内通話が24時間無料になる通話割引サービス「ホワイトライン24」を開始したほか、2009年3月より、携帯電話を固定電話の内線電話として利用できる法人向けFMCサービス「ホワイトオフィス」の受け付けを開始しました。今後も移動体通信事業とのシナジーを高め、法人ビジネスの一層の強化に取り組んでいきます。

インターネット・カルチャー事業



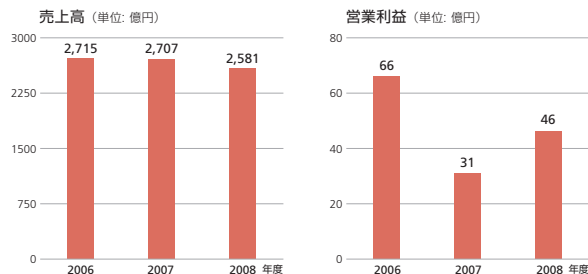
当期のトピック

- 顧客基盤の拡大、高機能・高付加価値な広告商品などにより、高成長が継続

売上高は254,238百万円となり、前期と比較して6,595百万円(2.7%)増加しました。営業利益は125,098百万円となり、前期と比較して9,860百万円(8.6%)増加しました。当事業の主な事業会社のヤフーの広告事業では、ディスプレイ広告において、行動ターゲティング広告やデモグラフィックターゲティング広告への評価が高まり、売り上げも前期比で100%以上の伸びとなりました。検索連動型広告では、連結子会社化したオーバーチュアとのシナジーを高め、売り上げが前期比で約4割増加しました。なお興味関心連動型広告「インタレストマッチ」は、9月の開始以降売り上げの拡大が続いているほか、モバイル広告も売り上げが前期比で約170%増となりました。

「Yahoo!ショッピング」では、季節に応じた販促企画を展開するとともに利便性の向上を図ったことにより、取扱高が増加しました。また2009年3月末の「Yahoo!ショッピング」、「Yahoo!オークション」のストア数が合計で32,843店舗と前年同月末と比べて1,554店舗(5.0%増)増加し、テナント料収入、手数料収入ともに伸びました。このほか「Yahoo!プレミアム」において、2009年3月末の会員ID数は過去最大の736万ID(前年同月末比6.4%増)となり、売り上げも約2割増加しました。

イーコマース事業



当期のトピック

- 業務効率改善や好調な「ソフトバンク SoftBank SELECTION」により収益性が向上

売上高は258,184百万円となり、前期と比較して12,539百万円(4.6%)減少しました。営業利益は4,636百万円となり、前期と比較して1,479百万円(46.9%)増加しました。当事業の主な事業会社のソフトバンクBBのコマース&サービス事業部門では、個人向け売り上げが堅調に推移したものの、昨秋からの市場環境の悪化を受け、法人向け売り上げが減少し、減収となりました。一方、継続的な業務効率の改善などが着実に収益貢献したほか、2007年11月より開始した「SoftBank SELECTION」において、取り扱う携帯電話関連のアクセサリ数および取り扱い店舗数が引き続き増加し、収益に寄与し始めました。同社では今後も、当社グループの通信関連事業とのさらなるシナジーを追求していきます。

その他の事業

売上高は88,226百万円となり、前期と比較して11,646百万円(11.7%)減少しました。営業損失は194百万円(前期は5,121百万円の営業損失)となりました。「その他の事業」には、テクノロジー・サービス事業(ソフトバンク・テクノロジー)、メディア・マーケティング事業(主にソフトバンク クリエイティブ、アイティメディア)、海外ファンド事業、その他(主にTVバンク、福岡ソフトバンクホークス関連事業)の業績が反映されています。

会社概要

社名(商号)

ソフトバンク株式会社
(英文社名)SOFTBANK CORP.

本店所在地

東京都港区東新橋一丁目9番1号

設立年月日

1981(昭和56)年9月3日

資本金 (2009年3月31日現在)

187,681,761,101円

株主数 (2009年3月31日現在)

366,252名

発行可能株式総数

3,600,000,000株

発行済株式総数 (2009年3月31日現在)

1,081,023,978株

1単元の株式数

100株

取締役および監査役 (2009年6月24日現在)

代表取締役社長 孫 正義

取締役

宮内 謙

笠井 和彦

井上 雅博

ヤフー株式会社 代表取締役社長

ロナルド・フィッシャー

SOFTBANK Holdings Inc. Director and President

ユン・マー

Alibaba Group Holding Limited Chairman and CEO

柳井 正 (社外取締役)

株式会社ファーストリテイリング 代表取締役会長兼社長

村井 純 (社外取締役)

慶應義塾大学 環境情報学部教授

マーク・シュワルツ (社外取締役)

MissionPoint Capital Partners, LLC Chairman

常勤監査役

佐野 光生

公認会計士

監査役

宇野 総一郎 (社外監査役)

弁護士

柴山 高一 (社外監査役)

公認会計士・税理士

窪川 秀一 (社外監査役)

公認会計士・税理士

- 本誌に記載されている会社名、ロゴ、製品名、サービス名およびブランドなどは、ソフトバンク株式会社または該当する各社の登録商標または商標です。
 - Apple, Appleのロゴは、米国および他国のApple Inc.の登録商標です。
 - iPhoneはApple Inc.の商標です。
 - iPhone商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
 - iPhone 3Gは単独の通信業者のサービスでのみお使いいただけるよう設定されている場合があります。
- 本誌の一部あるいは全体について、当社の許可なく複製および転載することを禁じます。
- 本誌に掲載されている携帯電話の画面はイメージです。実際の画面と異なる場合があります。

株主メモ

事業年度

4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会

6月

期末配当金受領株主確定日

3月31日

株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関

〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社

(連絡先)

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
TEL: 0120-232-711(通話料無料)

上場証券取引所

東京証券取引所

公告の方法

電子公告により行う。

公告掲載URL: www.softbank.co.jp/kokoku/

(ただし、電子公告により行うことができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告を掲載いたします)

株券電子化によるご注意

- 株券電子化に伴い、株主さまの住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で支払いいたします。

ソフトバンク株式会社

〒105-7303 東京都港区東新橋一丁目9番1号
TEL: 03-6889-2000
E-mail: sb@softbank.co.jp
www.softbank.co.jp

Copyright ©2009 SOFTBANK CORP. All Rights Reserved.

Printed in Japan

ウェブサイトリニューアルのご案内



2009年1月にソフトバンクのウェブサイトを
リニューアルいたしました。株主・投資家向け情報も
満載ですので、ぜひご覧ください。

www.softbank.co.jp/ir/

「メールマガジン ソフトバンクニュース」は、
www.softbank.co.jp/mail/

からお申し込みいただけます。



本誌は再生紙を使用しています。
植物性大豆油インキを使用しています。